

(19) 日本国特許庁 (J.P.)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-119662

(P.2001-119662A)

(43) 公開日 平成13年4月27日 (2001.4.27)

(51) Int. Cl. 7 識別記号

H04N 5/91

G11B 27/032

31/00

H04N 5/7826

541

F I

G11B 31/00

541

H04N 5/91

5/782

G11B 27/02

テマコード (参考)

M 5C018

N 5C053

A 5D110

C

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全4頁)

(21) 出願番号 特願平11-296856

(22) 出願日 平成11年10月19日 (1999.10.19)

(71) 出願人 000005821

松下電器産業株式会社

大阪府門真市大字門真1006番地

(72) 発明者 東 貞良

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

(74) 代理人 100086737

弁理士 岡田 和秀

Fターム (参考) 5C018 AA00 AB01

5C053 FA14

5D110 AA04 AA27 AA29 BB20 CA12

CA16 CB01 CD15 CD23 CD24

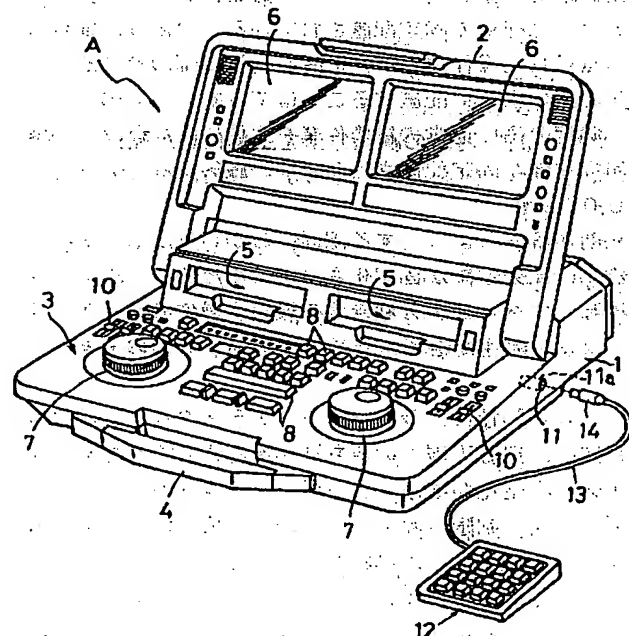
CF13

(54) 【発明の名称】 映像編集装置

(57) 【要約】

【課題】 使い勝手の良い状態で編集用のデータ入力処理をおこなうことができる映像編集装置を提供する。

【解決手段】 種々の編集用操作部を設けた装置本体Aとは別に、使用位置を任意に変更できる別体のテンキーパッドなどの編集データ入力部1,2を備え、装置本体Aと編集データ入力部1,2との間で有線あるいは無線で送受信を行う。



BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項1】 種々の編集用操作部を設けた装置本体とは別に、使用位置を任意に変更できる別体の編集データ入力部を備え、装置本体と編集データ入力部との間で送受信を行うことを特徴とする映像編集装置。

【請求項2】 請求項1記載の映像編集装置であって、前記編集データ入力部がテンキーパッドであることを特徴とする映像編集装置。

【請求項3】 請求項1または2記載の映像編集装置であって、前記装置本体と前記編集データ入力部との間での送受信を配線コードによって行うことを特徴とする映像編集装置。

【請求項4】 請求項1または2記載の映像編集装置であって、前記装置本体と前記編集データ入力部との間での送受信を無線によって行うことを特徴とする映像編集装置。

【請求項5】 請求項1ないし4のいずれかに記載の映像編集装置であって、前記装置本体がラップトップ型に構成されたビデオテープ編集用のものであることを特徴とする映像編集装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、ビデオテープの編集などに利用される映像編集装置に関する。

【0002】

【従来の技術】 例えば、ビデオテープ編集用の映像編集装置において、装置本体の操作盤上に設けられるキー、スイッチ、ダイヤル、などの多数の編集用の操作部は、通常の編集作業を前提とした上で編集作業を能率よく行えるような配列で固定配置されている。つまり、操作盤上の限られた操作エリア内に編集用操作部の全てを使い勝手の良いように配置することはできず、上記のように、頻度の高い通常の編集作業を主体にした配列で各編集用操作部が固定配置されるのが一般的となっている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、編集用操作部の配列位置が固定化されていたために、編集作業の種類、オペレータの利き手の違いや操作の癖、等によっては使い勝手が悪くなる場合も発生するものであった。

【0004】 特に、ラップトップエディタなどの映像編集装置は、撮影現場への持ち運びを容易にするために装置本体の小型化が要求される関係で、操作盤上での操作エリアが狭く制限されてしまうので、操作盤上での編集用操作部の配列に一層制約が加えられて、上記傾向が更に強いものとなり、場合によっては、特定の編集用操作部を省略せざるを得ない場合も生じる。

【0005】 もちろん、特定の編集作業に合わせて別途の配列形態の操作盤を準備するとよいが、そうした場合

では操作盤仕様の異なった装置本体を製作しなければならず、その分、コストアップになり、実用上には問題となる。

【0006】

【課題を解決するための手段】 本発明は、このような点に着目してなされたものであって、装置本体の編集用操作部のみならず、装置本体と分離された別体の編集データ入力部でも編集操作できるようにすることで上記した課題を解決している。

【0007】

【発明の実施の形態】 請求項1に係る発明の映像編集装置は、種々の編集用操作部を設けた装置本体とは別に、使用位置を任意に変更できる別体の編集データ入力部を備え、装置本体と編集データ入力部との間で送受信を行うことを特徴としており、これにより次のような作用を有する。すなわち、装置本体と分離された別体の編集データ入力部を使い勝手に良い任意に位置に配備して操作することができる。

【0008】 請求項2に係る発明の映像編集装置は、請求項1記載の映像編集装置において、前記編集データ入力部がテンキーパッドであることを特徴としており、これにより次のような作用を有する。すなわち、多くのキーを備えたテンキーパッドを装置本体と分離して配備でき、装置本体の操作盤上でのテンキー配置スペースを省略して、テンキー操作を外部操作専用にする仕様にしたり、あるいは、装置本体の操作盤上にテンキーを標準装備するのに、他の編集用操作部の邪魔にならない位置に配置しておいて、テンキーを頻度高く使用する編集作業では、外部のテンキーパッドを利用して能率よくテンキー操作するような仕様にすることができる。

【0009】 請求項3に係る発明の映像編集装置は、請求項1または2記載の映像編集装置において、前記装置本体と前記編集データ入力部との間での送受信を配線コードによって行うことを特徴としており、これにより次のような作用を有する。すなわち、配線コードの長さの範囲で別体の編集データ入力部を任意の位置に移動させて使用することができる。

【0010】 請求項4に係る発明の映像編集装置は、請求項1ないし3のいずれかに記載の映像編集装置において、前記装置本体と前記編集データ入力部との間での送受信を無線によって行うことを特徴としており、これにより次のような作用を有する。すなわち、装置本体と別体の編集データ入力部との間には配線コードがないので、配線コードを引っ掛けたり、操作の邪魔になるようなことがない。また、保管時に配線コードが邪魔になることがない。

【0011】 請求項5に係る発明の映像編集装置は、請求項1ないし3のいずれかに記載の映像編集装置において、前記装置本体がラップトップ型に構成されたビデオテープ編集用のものであることを特徴としており、これ

により次のような作用を有する。すなわち、操作盤の操作エリアの狭いラップトップ型のビデオテープ編集装置では、或る編集データ入力を装置本体外から行えることは、操作盤上に他の編集用操作部を配置する自由度が高くなる。

【0012】以下、本発明の一実施の態様を図面に基づいて説明する。

【0013】図1に、本発明に係る映像編集装置の一例であるビデオテープ編集用のラップトップエディタが示されている。ラップトップエディタは、撮影現場などでも編集することができるよう携帯型に構成されている。ラップトップエディタの装置本体Aは、本体ケース1と、この本体ケース1に対して起伏可能に設けられたディスプレイ部2とを有する。本体ケース1は、ディスプレイ部2の起立によって露出される操作盤3と携帯用把手4とを備える。

【0014】本体ケース1は、ソース用と編集用として2台のビデオデッキを左右並列状態で内蔵しており、テープカセットを挿抜される左右一対のカセット装填口5を備える。ディスプレイ部2は各ビデオデッキに対応して左右一対の液晶式のモニタ画面6を備える。

【0015】操作盤3には、スイッチ選択した左右の内蔵デッキにおけるテープ走行を操作制御するジョグダイヤル7、各種のテープ編集処理を司る編集操作キー8群、再生音量の調整を司るスライド・ボリューム10、等の各種の編集用操作部が備えられている。

【0016】本体ケース1の横側面には接続孔11が形成され、ここに、イベント設定を司る編集データ入力部としてのテンキーパッド12から延出したコード13のコネクタ14を差し込み接続するジャック11aが設けられており、このジャック11aにコネクタ14を接続することで、テンキーパッド12を装置本体Aから離れた使い勝手の良い任意の位置の置いて操作することができるようにになっている。

【0017】なお、操作盤3には、図示はしないが、テンキーパッド12との間で信号の送受信を行うインターフェース部が設けられている。同様に、テンキーパッド12にも、図示はしないが、操作盤3との間で信号の送受信を行うインターフェース部が設けられている。

【0018】本発明は、以下のような形態で実施することも可能である。

【0019】図2に示すように、テンキーパッド12で入力された編集データを赤外線信号に変換して発光部15から送信して、本体ケース1の前面に設けられた受光部16で受信するようにして、無線でデータの伝達を行うよう構成することもできる。

【0020】装置本体から分離して備える編集データ入力部としては、テンキーパッドの他に、例えば、録音再生レベルの調整用のスライドスイッチからなるフィード、編集操作点の設定や、早送り／巻戻し、早送り再生

／巻戻し再生、スローモーション再生、等を行うジョグダイヤル、等がある。

【0021】また、例示した上記実施形態では、装置本体Aの操作盤3上にテンキーを装備せず、テンキーパッド12を装置本体Aから分離した別体の編集データ入力部として装備しているが、操作盤3上に設けられている編集用操作部と同機能の編集データ入力部を装置本体Aから分離して別途装備して、操作盤3上の編集用操作部あるいは別体の編集データ入力部のいずれからでも入力できるように構成することも可能である。

【0022】装置本体から分離して備える単一の編集データ入力部から複数種の編集データ入力を行えるように構成するもよく、また、装置本体と、分離された複数の編集データ入力部との間で信号の伝達を行えるように構成することも可能である。

【0023】また、本発明は、ラップトップエディタのような携帯型の映像編集装置に限られるものではなく、据置き型の映像編集装置に適用することもできる。

【0024】

【発明の効果】以上の説明から明らかなように、本発明によれば以下に示すような効果が期待できる。

【0025】請求項1に係る発明により、装置本体と別体の編集データ入力部を任意の位置に配置して操作することができ、使い勝手の良い状態で便利に使用することができるようになった。

【0026】請求項2に係る発明により、キー数が多く大きい操作スペースを要するテンキーを、装置本体とは別体の編集データ入力部とすることができ、テンキー自体を操作の容易な配列で使用できるとともに、装置本体での編集用操作部の配列に余裕ができ、装置本体自体での操作性をも向上することができる。

【0027】請求項3に係る発明により、装置本体と配線コードで接続された別体の編集データ入力部がどのような姿勢で置かれても、有線による信頼性の高いデータ送信を行うことができる。

【0028】請求項4に係る発明により、装置本体の受信可能なエリア内であれば編集データ入力部をどこに置いても編集データ入力部から編集データを装置本体に無線で伝達することができ、配線コードが邪魔になるようなことなく便利に取扱うことができる。

【0029】請求項5に係る発明により、操作盤上の操作エリアが狭くても操作しやすい仕様での編集作業を行うことができ、特に小型化が要求されるラップトップ型の映像編集装置として有効に適用することができる。

【図面の簡単な説明】

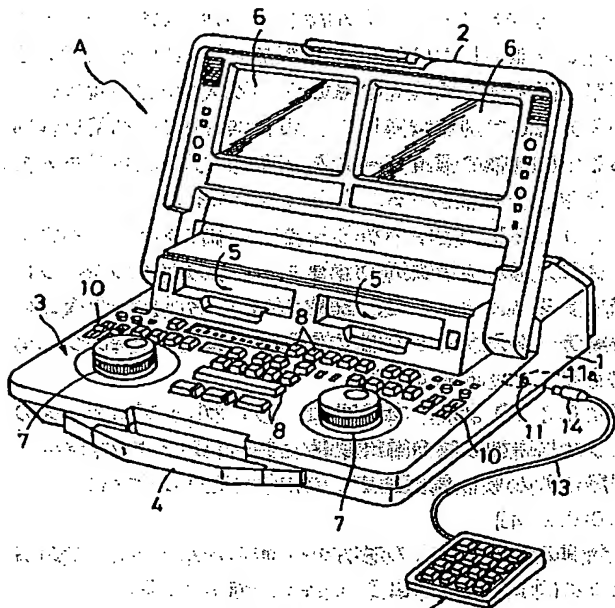
【図1】本実施の形態のラップトップエディタの使用状態を示す斜視図である。

【図2】他の実施の形態におけるラップトップエディタの使用状態を示す斜視図である。

【符号の説明】

A 装置本体

【図1】



1 2 編集データ入力部

【図2】

